



## 仙台塩釜港復興だより 第7号 — 港湾は人の心も結んでいます —

### 仙台塩釜港の1年間の復興を振り返る

東日本大震災により仙台塩釜港や松島港は陸域・水域にわたって甚大な被害を受けましたが、仙台塩釜港（仙台港区）においては関係する皆様の多大なご尽力・ご協力のおかげで、復旧工事中であった高砂2号ふ頭（-14m）の暫定供用が開始されたことから、1月までに全ての公共ふ頭で船舶の発着ができるようになりました。

震災直後から航路や道路等の応急復旧を進めた結果、6日後の3月17日には早くも仙台塩釜港（仙台港区）高松ふ頭に緊急支援物資輸送船が入港し、海上輸送の重要性が再認識されたところです。

3月21日には仙台塩釜港（塩釜港区）に石油輸送船が入港し、深刻だった燃料不足の解消に大きな役割をはたしました。

4月1日から一般貨物船の入港も可能になり、各種船舶の入港が再開することで、仙台塩釜港の物流機能が少しずつ回復に向かいました。

5月27日には、震災後初めて外航船が入港したことを契機に、入港数が回復するようになりました。

6月8日には、クローラークレーンによるコンテナ貨物の輸出入が再開されました。再開当初は内航航路のみでしたが、9月30日にはガントリークレーン2号機が稼働し、中国や韓国と結ぶコンテナ国際定期航路が再開され、12月までに3機のガントリークレーンが稼働しています。

1月22日には北米航路、3月30日には韓国航路も再開されました。この間に、臨港道路や周囲の建物なども次第に被災前の状態に近づいてきました。



●震災後初の外航船（平成23年5月27日）



●外航コンテナ再開（中国／韓国航路）  
（平成23年9月30日）



●北米西岸／東南アジア航路再開  
（平成24年1月22日）

なお、ふ頭や道路などの復旧工事は今も鋭意続けています。工事が終了するまでの間、港湾利用者の皆様にはいろいろご不便をおかけすることになりますが、引き続きご理解及びご協力をお願いします。

---

### 造ります！みんなを守る 防潮堤

---

津波は将来再び襲ってくる可能性があります。そこで、仙台塩釜港（仙台港区）においては明治三陸地震津波やチリ地震津波など数十年から百数十年に1度クラスの津波からは人命だけでなく地域住民や各企業の財産も守り、千年に1度クラスの津波であっても適切に避難することで人命を守ることを目的に、港も含めた海岸線に沿って防潮堤を新たに造ることになりました。2月6日に塩釜商工会議所で説明会を開き、現在、各関係企業の皆様に説明を進めています。

防潮堤設置にあたっては、工事などによりいろいろとご不便をおかけすることになるほか、場合によっては用地のご提供をお願いすることもあります。防潮堤に切れ目があるとそこから海水が侵入し効果が大きく減少しますので、ご理解及びご協力をお願いします。

---

### カナダから経済団体が視察に来ました

---

2月16日、カナダ経営者評議会ブチュービス副会頭やカナダ商工会議所エバソン上席副会頭などが仙台塩釜港（仙台港区）の視察に訪れました。

仙台塩釜港（仙台港区）の概要や被災状況、復旧状況などを説明したほか、高砂コンテナターミナルでは、カナダから輸入された住宅資材が45フィートコンテナに積み込まれている様子を視察しました。45フィートコンテナは、宮城県において日本で初めて商業ベースでの使用が開始され、国内外から注目を集めています。

今後も国内外の要人による視察が見込まれます。視察の対応を通じた情報交換を進めていくことにより、仙台塩釜港に寄港する船舶数や取扱貨物量が回復、そして成長して行くことが期待されます。



●韓国航路再開（平成24年3月30日）



●仙台塩釜港（塩釜港区）の防潮堤の高さ表示



●防潮堤説明会の様子



●カナダ関係者視察の様子



●カナダ関係者視察の様子

## 東京でもPR!「仙台国際貿易港首都圏セミナー」を開催しました

2月10日、宮城県、仙台市及び仙台商工会議所で構成される仙台国際貿易港整備利用促進協議会が東京都内で「仙台国際貿易港首都圏セミナー」を開きました。第一部のセミナーでは、仙台塩釜港のPRが行なわれ、首都圏の荷主、船社、物流企業など約500人が参加しました。

その中で、鎌田会長と村井知事は共に今後の仙台塩釜港の復興への熱意を語りました。また、橋本土木部長は「6月からコンテナの取扱いを再開し、12月には前年同月と比べ72%の水準まで回復し、北米航路再開や45フィートコンテナ特区に認定された。2013年度には取扱量を震災前の21万6千TEUの水準まで戻すために、積極的にポートセールスをしていく」と述べました。

また、株式会社オーヤマの管理部業務課リーダーの尾形氏より45フィートコンテナ構想等仙台塩釜港を中心とした物流戦略について「アイリスオーヤマの仙台塩釜港を活用した物流戦略」と題して、講演していただきました。



●仙台国際貿易港整備利用促進協議会  
鎌田会長



●宮城県 村井知事



●株式会社オーヤマ 尾形リーダー

## 震災後初の大型タンカー船が入港しました。

仙台塩釜港のJX日鉱日石エネルギー株式会社仙台製油所に大型オイルタンカー「TSURUSAKI」が2月16日に入港しました。重量トン数30万トンを超えるオイルタンカー船が仙台塩釜港に入港するのは東日本大震災後初です。



●大型オイルタンカー船  
「TSURUSAKI」

## 地域の安全確保へ、蒲生駐在所が復活

仙台東警察署は仙台市宮城野区蒲生字西屋敷添に、仮設駐在所を開設しました。以前は宮城野区中野字高松に駐在所がありましたが、津波により流失してしまい、しばらく駐在所が無い状態が続いていました。この駐在所は仙台東警察署管内では一番海に近く、沿岸部の復旧・復興に向け、地域の実情把握や安全確保において非常に重要な拠点となります。



●蒲生駐在所（仮設）

## 日鐵住金建材株式会社が「防災まちづくり大賞」を受賞！

周囲に高台がない仙台塩釜港（仙台港区）。日鐵住金建材株式会社仙台製造所は工場建設時に地下構造物建設で発生した土を敷地内に盛り土して、住宅地への騒音漏洩防止とともに、樹木を植えることで自然環境にも配慮するために築山にしました。築山はGL+5mの高さですが、平成14年頃からは津波を想定して工場従業員の最終避難場所に指定し、地震のたびに築山に避難することを繰り返してきました。東日本大震災の時も築山への避難を徹底することにより、工場内全員の命が助かりました。

この取組みにより、総務大臣から平成23年度「防災まちづくり大賞」として表彰されました。避難できる場所を造り、その場所に必ず避難することで命を守る。今後の津波被害が想定される各地域でも命を守るモデルになることが期待されます。



### ●命を救った築山

（日鐵住金建材株式会社提供）



### ●築山での避難の様子

（日鐵住金建材株式会社提供）

## 港湾美化にご協力ありがとうございました

仙台市雨水ポンプ場がある臨港道路蒲生幹線と区画9号線の交差点付近の緑地には枯れ草やゴミが目立っていました。これに対して、株式会社橋本店と株式会社高工の共同企業体の方々が2月に除草やゴミの撤去を行いました。その結果、美化作業が行われた現場は見違えるようにきれいになりました。

港湾管理者等による環境整備には限界がある中で、大変ありがたいご協力でした。今後もよりよい港づくりに向けて、県も事業を進めていきますので、皆様にも引き続きご理解とご協力をお願いします。



### ●清掃作業前



### ●清掃作業後

## 編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所 港政班

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3 アクセル5階

TEL:022-254-3132(港政班直通)

FAX:022-254-3136

E-mail: [sdsgkowns@pref.miyagi.jp](mailto:sdsgkowns@pref.miyagi.jp)